

岐阜市青少年育成 市民会議だより

設立五十周年をむかえて

昭和四十四年に設立された岐阜市青少年育成市民会議は、今年五十周年を迎えた。五月に記念式典十月には記念誌を発行し、令和二年四月の青年みこしの実施に向けて取り組んでいるところである。記念式典では、柴橋会長の挨拶に続いて、三十九名に「功労者特別表彰」が授与された。また、多くの来賓にご参列いただき、岐阜県環境生活部長様、市議会議長様、教育長様から祝辞をいただいた。予測困難な時代にあつて、青少年の生活環境も大きく変化し、それにもなつて価値観や生活の様相も大きく変わってきている。こういう時代だからこそ、まずは、大人が時代の変化に対応していけるようにするとともに、地域の人たちが「あなたを大切にしている」というメッセージを送れるよう、市民会議がリードしていかねければならないことを再認識することができた。



50周年功労者表彰

第46回 岐阜市「家庭の日」推進大会

◆アトラクション

岐阜清流中学校吹奏楽部
岐阜県立岐阜北高等学校吹奏楽部



◆パネルディスカッション

<テーマ>

「何でもスマホの時代だからこそ！“話す”って大事じゃん」

<パネラー>

○岐阜市青少年育成市民会議会長 柴橋 正直
○岐阜清流中学校・岐阜中央中学校・本荘中学校・梅林中学校
・岐阜工業高等専門学校の生徒 5名

<コーディネーター>

○本荘青少年育成市民会議会長 山口 禎一郎

令和元年度号

発行日 令和2年3月3日
発行者
岐阜市青少年育成市民会議
岐阜市教育委員会青少年教育課

岐阜市神田町1丁目1番地
TEL 058-214-2367

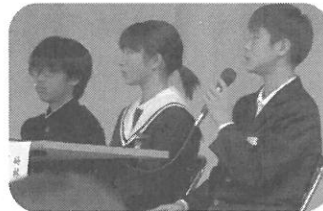
一月二十六日(日)、「第四十六回家庭の日推進大会」が、日光コミュニティセンターで開催され、約三百人が参加した。会に先立って、日常的に合同練習をしている岐阜清流中学校と岐阜北高等学校の吹奏楽部が、美しくリズムミカルな演奏と人気の「パプリカ」のダンスを交え、明るくさわやかに幕を開けた。

開会セレモニーに続いて、市民会議会長である市長と地域の中高生五名が、時に会場の参加者からの意見を交えながら、国の「インターネット社会の親子関係に関する意識調査」をもとに、自分の体験や考えを語り合った。

生徒からは、「学校の調べ学習のためにも利用し一日二時間くらい使う」「親と同じテレビ番組を見て話題にすることが減った」とか、「自治体が条例で規制することに反対」「親がスマホを見ている時間が増えた」「大人もネット難民にならないように勉強してほしい」といった意見があつた。

柴橋会長(市長)からは、「会話は相手のリアルタイムの反応がわかる。心を通じ合わせるために多くのエネルギーを使い、人間力が磨かれること」やスマホなどで情報を共有しながら、子どもと話す話題にしている等の利用方法の紹介もあつた。

まとめとして、日常的な家族の会話こそが、子どもたちにとって安心できる環境づくりにつながることを再認識し合った。



決めて、守ろう！「我が家のルール」

第3日曜日は
家庭の日

ブロック・地域の活動

第1ブロック

常磐地域

未来の常磐を担う礎へのたねまき

小学生、中学生の子どもたちが、自主的に活動できるような場を作り、それを見守るのが私たち常磐青少年育成市民会議の役割だと思っている。また、関連する地域の人たちへ目的の水平展開をし、子どもたちを日々温かい眼差しで見守っていただ

いて。さて、我々独自の活動内容を二点紹介させていた

「高めよう！私たちは常磐の担い手」と定め、地域のおじさんおばさんや各種団体の方が講師となって実施する。こうした活動から、地域の大人の温かさを感じることができている。



「高めよう！私たちは常磐の担い手」と定め、地域のおじさんおばさんや各種団体の方が講師となって実施する。こうした活動から、地域の大人の温かさを感じることができている。

第2ブロック

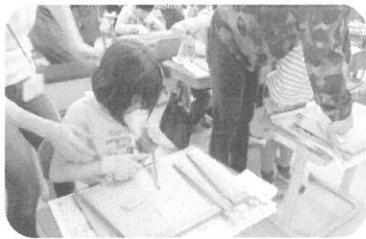
鷺山地域

竹箸作り

十一月九日（土）。今年も、自治会連合会やPTAの協力を得て、市民会議、鷺山小学校共催で、「ふるさとふれあい活動」が開催された。

小学校の各学年に、地域の大人が講師として参加し、小学生の活動をサポートしながら、子どもたちが「自分も地域の一員である」という意識や郷土を愛する心を育むことを目的として、毎年十一月に開催される。

中でも、三年生の「竹箸作り」では、切り出しナイフで竹を削るため、子どもだけでは困難なので、子どもと保護者が狭い机の上で一緒に削っている。



保護者は、子どもがけがをしないように気遣い、子どもは、「親に負けないように」と竹を削る。その間を講師である地域の大人が巡回しながら指導する。まさに、子どもと保護者、地域の大人が一体となった作業である。

第2ブロック

黒野地域

ミニ集会

今年で四十六年続いている「ミニ集会」では、市民会議主催で、町内毎に、二十四会場にて『地域で子どもを育てる町内づくり』についての意見交換を行っている。

参加者は、小中学生の保護者、自治会役員、民生委員、市民会議役員、アドバイザーとして小中学校の先生にも参加していただき、進行を市民会議町内委員が行う形で、意見交換を行っている。



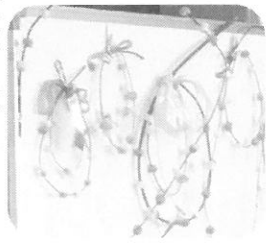
その内容としては、小中学生が不安を感じている薄暗く、幅の狭い通学路のことや、柵がなく滑り落ちそうな池や川のこと、雑草が繁茂し、古く錆びついて

城西地域

おもちつき大会

十一月二十三日、今年も恒例の「おもちつき大会」が開催された。早朝から仕込んでいた餅米を蒸し、温めた石臼へ運び、小学生、中学生を中心に交代で餅をついた。

つき上がった餅は次の工程へ。子どもたちのかわいい手で丸める鏡餅作りは楽しそうだ。



また、子どもたちが作った餅が入ったせんざい（餅の屑）が参加者に振舞われ満足そうだった。紅白の小さな餅で飾られた花餅作りも好評だった。今年も恒例の「おもちつき大会」は、子どもたちと保護者、地域の大人が一体となった作業である。

第3ブロック

本郷地域

鮎と遊ぼう 2019

本年度は「夢づくりふれあい事業」として、明郷小学校・明郷小PTA・明徳青少年育成市民会議全面協力の下、土曜授業として鮎つかみを開催した。子どもたちがのびのびと五百匹の鮎と遊んで喜んでいた。鮎つかみの後は、役員で焼いた鮎を、各自おいしく食べてもらった。

第2回グリーン運動&けやき祭り

朝早くみんなでけやきの落ち葉を拾った後、楽しいイベントを用意してみんなで盛り上がった。落ち葉拾いの際の安全性を考えて、岐阜市・岐阜中警察署の理解と協力を得て、本郷通りを午前中、全面車輛規制して実施した。

また、側道には様々な店が出された。本郷青少年育成市民会議では、事前に集めて乾燥



させておいた落ち葉を活用して、岐阜中央中学校のボランティア生徒や地域委員の協力で「落ち葉プールD E宝探し」「ボールプールD E宝探し」や岐阜市左官組合の協力で、「ツルツル泥だんご教室」「落ち葉でどーんと焼き芋」「ポップコーン」を行い、大変盛り上がったものとなった。

参加した子どもたちの笑顔を見ながら、「やって良かった」と実感できた一日となった。

徹明地域

かえってきたいまちづくり

旧徹明小学校の校庭には、今もピオトープがある。学校が統合され小学生在が通わなくなったが、そこには多くの草花が咲き、昆虫もいる。

小学生がいなくなり取り残されたピオトープには、これまで徹明小学校に通った子どもたちの思い出がたくさんつまっている。

私たちは、この「夢の小川」ピオトープの環境保全のために今も活動している。



徹明さくら小学校、本荘中学校の皆さん、子ども会や地域の皆さんの協力で、年間通して水辺や周辺の草木の手入れを行っている。また、今年から岐阜大学の学生さんが、徹明青少年サポーターズ「teamさくらとーぷ」を発足させて一緒に活動をはじめた。ピオトープの環境整備を通して昆虫の生息を確認したり、草花の名前を学んだり、校庭の草花で草木染めをしたり、廃油を活用したロウソクづくりをしたりして、クリスマス会を開催することができた。

最初は、ホタルの生息できる地を目指した活動だったが、今は思い出がいっぱいのこの場所にまた帰ってきたいと思えるように、活動を続けている。

第4ブロック

厚見地域

夏祭り盆踊り大会

今年度も恒例の「夏祭り盆踊り大会」を八月四日(日)に厚見小学校の校庭で開催した。

当日は、早朝から櫓組みに汗を流し、備品の運搬等の準備を行い、午後三時から夜店の準備を各担当に分かれて手際よく進めた。

毎年千名近い参加者がある青少年育成市民会議のメイン行事であり、四部会と執行部が協力し、各担当を決めてバザーを行った。オール百円で綿菓子、かき氷、ポップコーン、輪投げ、ヨーヨー、ジュース等、午後六時の開店から行列ができた。「厚見小学校おやじの会」によるみたらし団子やフランクフルト、たませんは、空腹を満たしてくれる。多くの中学生ボランティアや、地域の会社が協賛してブースを出店するなど大盛況だった。厚見地域在住の「飛翔太鼓」代表の羽田さんも毎年メンバーと共に参加して、迫力の太鼓を披露してくれた。メインの盆踊りでは、地域の民謡クラブ、ヘルスクラブ、舞踊サークル、あじさいクラブの皆さんで、櫓の回りに賑やかな輪ができていた。



この行事は、地域の三世代交流の場となり、青少年が地域活動へ積極的に参加していけるきっかけになっている。今後時代ニーズを取り入れながら続けていきたい。

柳津地域

オリエンテーリング開催

十月二十日、境川緑道公園において、「家族ふれあいオリエンテーリング」を開催した。今年で二十八回目を迎える。この行事は、毎年十月の第三日曜日(家庭の日)に開催し、柳津青少年育成市民会議主催の恒例行事である。



当日はさわやかな秋晴れの下、家族や友達同士が連れだって多くの人たちが参加し、ウォーキングをしながら「空き缶釣り」「フライングデイスク」「大声チャレンジ」などのゲームを大人も童心にかえって楽しんだ。オープニングは岐阜聖徳学園大学「柳」の演舞が花を添えた。参加者も一緒に踊りの輪に入っただけの演出は、とても盛り上がった。

境川中学校の生徒がボランティアとして参加し、ゲームコーナーや受付・賞品渡しを担当し、とても頼もしく感じた。

参加者の多くが、毎年この行事を楽しみにしており、「来年もぜひ参加します!」と言って元気に帰って行った。そうした人たちのためにも、世代交流の場でもあるこの行事を今後も継続していきたい。

第5ブロック

長森南地域

みんなで見守る！

市民会議が主催する「子供フェスティバル」は、例年夏休み直前に開催していたが、今年は、熱中症が心配なので、六月二日（日）に開催した。保護者三百人、中学生三十五人、小学生の参加人数を合わせると、総勢千三百人の参加者で、小学校は熱気に包まれていた。「わら細工」や「紙ヒコキ」「煙道体験」など二十四のコーナーを自由に回る子どもたちの元気な声があふれていた。

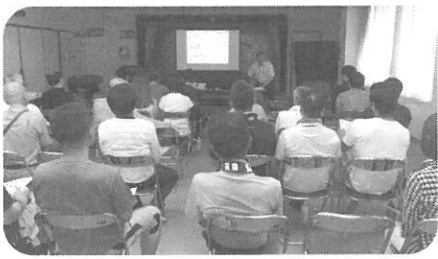
また、十一月二日（土）の「夢生き生き文化フェスティバル」は、自治会、クラブサークルも含めて、四百人のボランティアの協力があつた。九十一人の中学生ボランティアは、地域の人と一緒に小学生をリードした。そんな中学生の姿を見ることができ、嬉しきことである。二十の活動コーナーがあり、もの作りや化石教室科学実験もあり、子どもたちの希望でコーナーを決める。その一つ、この地域自慢の手力火祭の手筒花火作りも人気のコーナーになっている。将来、この子どもたちが御輿を担いでくれることを願っている。



岩地域

まずSNSを知ることから

子どもたちのSNSを使った事件やいじめの事案がしばしば報道される昨今である。「朝日新聞デジタル」には、「警察庁によると、昨年にSNSを通じて事件に巻き込まれた一八歳未満の子どもの数は一八一一人で、統計を取り始めた二〇〇八年以降で二番目に多かった。近年は小学生の被害が増えており、昨年は過去最多の五五人。中学生は六二四人、高校生は九九一人だった。スマホなど携帯電話でSNSを使った子どもが一六三二人と全体の九割を占めた。被害者が使ったSNSは「ツイッター」「ひま部」「LINE」「マリンチャット」「ツイキャス」だった。」と掲載されていた。よく分からないことも多かった。そこで、七月三日の地区一斉パトロールの後に、講師を招いて地域学習会を行った。便利な道具の危険性を誰もが理解して使わなければならぬこと、発信することの責任の重さを認識することを分かつてはいるものの、それは想像以上だった。これらのことを多くの



人たちに広げていきたい。

ブロックの特色ある事業

「中学生によるディベート大会」

青少年健全育成大会の中核的な内容である第十一回ディベート大会を盛大に開催した。ブロック内の四中学校（長森中・長森南中・藍川中・藍川東中）と聖マリア高校でチームを編成し、論議について肯定・否定側に分かれて熱き討論を行った。今年の論議は「ボランティアの義務化」「選挙の棄権の罰則化」である。討論する立場は当日決定するので、生徒は両方の論立ての準備をして、大会に臨んだ。

ディベートに参加した中学生からは「質の濃い練習ができて、ディベートの面白さ、楽しさを知ることができた。」「コミュニケーション力を身につけることは自分の課題だ。貴重な経験ができた。」「負けて悔しい。どの立場になっても主張できるようにしたい」といけなかつた。等の意見を聞き、真剣に取り組み有意義な時間を過ごしてくれたことが分かった。参加者からは「反対意見を述べただけでなく、相手の意見を一部認めて話す姿は中学生とは思えないくらい素晴らしい。」「等、子どもたちの生き生きと自己主張する姿に、頼もしさを感じるとともに、将来の姿に思いを馳せる声が多数聞かれた。



子どもたちの輝く姿は宝物である。この大会の目的である「私たちの活動が、青少年一人一人の支援となり、青少年を主役にする一日にしよう！」は十分に達成することができたと、どの役員も実感した。

トップニュース

岐阜市少年の主張大会2019

六月二十二日（土）、ぎふメディアコスモスに多くの聴衆を集めて開催した。市内二十四校の代表二十四人が参加し、それぞれの体験や事実をもとに、仲間との関わりや未来への希望、現代的な課題等に対して、自分の思いや考えを熱く語っていた。今年度は、「要約筆記」を取り入れ、発表者の言葉をステージ上に映し出したことで、聴衆も理解しやすいものとなった。



優秀賞には、精華中学校の塚本杏奈さん、厚見中学校の向井健人さん、岐阜聾学校の藤川心花さん、岩野田中学校の中矢智さんが選ばれ、岐阜圏域選考会に推薦された。なお、県大会へ出場した藤川さんが、「人とつながる輪を広げる」をテーマに発表し、岐阜県青少年育成県民会議会長賞を受賞した。

第四十八回

岐阜市青年バレーボール大会

十月二十七日（日）、岐陽体育館で開催した。ブロック大会を経た十チーム（鷺山・藍川・西郷・白山・柳津市橋・茜部・長森南岩・芥見）が出場し、熱気にあふれた好試合が繰り広げられた。優勝Ⅱ西郷（2B）準優勝Ⅱ市橋（4B）三位Ⅱ鷺山（1B）

